

新出土医学簡講演会のご案内

※ 本講演会は、中国出土資料学会、平成29年度JSPS科研費 16K02157助成「中国古代の陰陽五行 —占と科学の成立—」（基盤研究（C））、京大人文研 研究班「汎アジア科学文化班研究会」、東文研研究班「中国古代文献の成立に関する多角的研究」との共催です。

成都天回鎮老官山漢墓出土医簡

講演者：柳長華教授(中国中医科学院・中国医史文献研究所原所長)
顧 漫副研究員(中国中医科学院・中国医史文献研究所)
周 琦助理研究員(中国中医科学院・中国医史文献研究所)
劉 陽助理研究員(中国中医科学院・中国医史文献研究所)
謝 濤副研究員(成都文物考古研究・成都市文物考古工作隊)

この度、中国中医科学院中国医史文献研究所より四名の研究者、成都文物考古研究所より一名の研究者をお迎えし、成都天回鎮老官山漢墓出土医簡に関する最新の情報を盛り込んだ発表をして頂くこととなりました。つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

【発表要旨】

天回漢墓医簡と医薬文物に関する重要な発見 柳長華

成都市天回鎮老官山漢墓3号墓から出土した951枚の医書竹簡及び髹漆経脈人形は、まさに近年の中国考古と医学に関わる重大発見と言える。本文では天回医簡の整理と経脈人形研究により得られた最新の成果を簡介し、その中で早期中医歴史に関わる改めて認識された重要な発見を報告し、「扁倉医学」の学術源流との関係を究明する。

天回漢墓医簡の整理・研究方法 周琦

出土簡帛の研究プロセスは概ね四段階に分けることができる。即ち科学考古・清理保護・釈文整理・研究出版である。天回漢墓医簡について言えば、整理小組の仕事の中心は先ず「清理保護」と「釈文整理」の二つを結びつけることの上であり、次いで釈文注釈や医簡の排列および学術源流等である。天回医簡整理の主要基礎作業は、①竹簡の出土時の堆積状態の分析、②竹簡の形制の分析、③残簡の綴合、④簡文の書写状況の分析及び⑤摹本の作成である。今回の報告では天回医簡を整理する過程で見られた実例を挙げ、上記5つの作業に関して説明する。髹漆経脈人形と竹簡はともにM3号墓底の箱内から出土し、考古学上、類似の経脈文献と経脈人形が同時に出土したことはない。天回髹漆経脈人形はわずかに14.5cmであり、身体上の原点（経穴）・銘文（穴名）及び経脈線は細くはっきり見えないことから、整理小組は経脈人形の局部を接写することにより、正確に経脈人形表面の円点・銘文と経脈線の平面図を作成した。今回の報告では、経脈人形表面の情報と経脈文献の関係についても併せて報告する。本文は天回医簡の整理過程に見られた実例を取り上げて、五つ方面に分けて説明する。

天回漢墓医簡における「通天」の意味と五色脈診について 顧漫

天回医簡では「通天」の言葉がしばしば用いられている。それは「042・肺甬（通）天為秋」、「006□・白色之甬（通）天為□」、「022・金之甬（通）天氣為天府」などであり、内容は五藏・五色・五行などに及ぶと考えられる。本論は、出土文献と関連する傳世文献との詳細な考証を通じて、「通天」概念が持つ古代医学の人体生命に対する根本認識を提示するものである。それは扁倉医学の「五色脈診」技術と密接な関わりがあり、中医脈診法と経脈体系を築く理論基礎である。言い換えれば、「生氣通天」の思想はつまり経脈医学の理論の核心でもあるのである。

天回漢墓医簡における典章制度と名物訓詁の関連問題について 劉陽

天回医簡には、後世まれに見られる名物が出現している。人体部位・病証・器物・用薬規範などを含め、主に薬方簡と病証簡に集中する。研究により、これら名物の命名は先秦・西漢の典章制度、とりわけ礼制・輿服・律曆などと密接に関わりをもつことが明らかになった。このことは医学名物の命名における比類や引伸の方式を反映し、同時に漢語辞彙の派生の重要方式でもある。しかも、扁倉医学の創立は中国文化の核心としての礼・楽の文明の影響を受け、かつ長期的に社会主流に奉仕した事実を提示しているのである。

老官山漢墓の墓主の身分についての探究 謝濤

今回の報告は西漢時期の移民問題、墓葬からの盗掘時期、副葬品、墓主の人類体質学的な骨格などについて検討する。

日時：2017年12月9日（土）午後1時～午後5時

場所：東京大学法文2号館215番教室

- 使用言語 中国語（通訳あり）
- 参加費 無料
- 講演会終了後に懇親会あり

連絡先：〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 山梨県立大学
名和敏光 Mail : nawa@yamanashi-ken.ac.jp